

*この事例集は、景観まちづくり教育ホームページの「景観まちづくり講座事例集」(全52事例)のうち、主として「景観・景観まちづくりに対する関心を喚起する」ことを目的とする事例を収録したものです。

収録事例リスト

- 様々な人が景観に触れられる機会をつくる
 - ◆お祭り・フェスティバル
 - 01 都市景観市民フェスタ [千葉県千葉市]
 - 02 いまばり緑化フェア [愛媛県今治市]
 - ◆コンクール
 - 03 都市景観絵地図コンクール [千葉県市原市]
 - 04 私が好きな松戸の景観スポット [千葉県松戸市]
 - 05 高校景観デザインコンテスト [青森県]
 - ◆パネル展・展覧会
 - 06 まちづくり彩々展 [北海道江別市]
 - 07 わたしが好きなまちかどスケッチ展 [神奈川県平塚市]
- 余暇活動や健康作りの機会を通じて景観に関心をもってもらう
 - ◆地域散策
 - 14 景観ウォッチング [東京都練馬区]
 - 15 ふるさと秦野景観見て歩き [神奈川県秦野市]
- 良好な景観や景観まちづくりに触れられる機会を提供する
 - ◆景観ツアー・先進事例視察
 - 22 うつのみや百景バスツアー [栃木県宇都宮市]
 - 23 まちづくり住民見学会 [茨城県土浦市]
 - 24 まちなみウォッチング [佐賀県佐賀市]
 - ◆講演会・シンポジウム
 - 25 景観セミナー [福島県いわき市]
 - 26 地域まちづくり塾 [千葉県松戸市]



- ❖市や大学、まちづくり協議会等が中心となって開催される「都市景観市民フェスタ」。
- ❖オープンカフェやパラソルギャラリーなど、市民自らが参加する内容とし、企画に参加した人だけでなく、通りがかりの市民までも巻き込んで、景観について考えるきっかけを生み出しています。
- ❖フェスティバルを楽しみながら、いつの間にか景観について考えたり学んだりしている仕掛けになっています。

詳細

- 対象：市民、中学生（ビデオスタジアム）
- 目的：フェスティバルに参加することで、景観について考えるきっかけとする

○平成 19 年度実施概要

- ・主催：市および都市景観市民フェスタ実行委員会（大学、まちづくり協議会、商工会議所、観光協会など）
- ・日程：10月6日～10月7日（メイン期間）
- ・場所：駅前大通り～中央公園

○企画：市民が参加できる5つの企画を実施

オープンカフェ

まちのにぎわいや楽しさを演出するため、4月末から10月末の約半年間、公園内にオープンカフェを開設。客席にはパラソルを設置し、にぎわいのある景観を創出する。

パラソルギャラリー

駅前大通りに「彩り」と「賑わい」を創出することを目的に、パラソルを並べ、「市民ギャラリー」として開放する。市民アーティストの作品（絵画やガラス細工など）やジャズ演奏などを披露する。また、夜間には、パラソルに灯体を入れたり、行灯を並べたりするなど、夜間景観の創出を行う。

ビデオスタジアム

市内の中学生を主体として、身近な景観の再認識と今後の景観づくりの手がかりとしてもらうため、千葉の風景を題材としたビデオを制作する。制作したビデオはと特設ブースにて放映するほか、優秀作品を表彰する。

花のキャンパス

約1万個の花苗ポットで描かれた巨大な絵を、スカイリフトに乗って上空10mから眺めることができる。利用した花苗は市民に無料配布している。

ウォールバスケット

市民を対象に、ウォールバスケット製作講習会を実施し、できた作品を公園に展示し、花の回廊を作る。また、優秀作品を選び、表彰している。



開催場所 MAP



オープンカフェ



パラソルギャラリー（夜）



花のキャンパス



❖毎年「みどりの日」にちなんで開催される「いまばり緑化フェア」。

❖オークションや花苗の無料配布、園芸講習会や即売会など、緑に関連する幅広い企画を実施し、多くの市民が気軽に参加できるように取り組んでいます。

❖たくさんの緑とふれあいながら、市民に緑に対する愛着を育み、「緑のまちづくり」への意識を持ってもらうきっかけを生み出しています。

詳細

○対象：市民

○目的：緑に関連するさまざまな企画を通じて、市民に「緑のまちづくり」への意識を持ってもらう

○内容・特徴：園芸講習会や花苗配布、緑化推進の児童作品の展示等を「緑化フェア」として一体的に実施する。

○平成 19 年度実施概要

- ・日程：4月28日～29日 10：00～16：00（平成19年度）
- ・場所：市民の森・フラワーパーク
- ・資金：緑化フェアでは、オークションや花苗配布の場などで募金活動を実施。ここでの募金は「緑のまちづくり基金」に積み立てられ、無料花苗の配布、結婚記念樹交付事業、生垣設置助成事業、市指定保存樹助成事業に充てている。

○企画：緑にかかわる様々なイベントを実施

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ●花と緑のオークション | ●園芸講習会 |
| ●花苗無料配布 | ●バザーコーナー |
| ●エンドレスサマーコンサート（チャリティーコンサート） | |
| ●表彰式（緑化推進ポスター・標語、花いっぱい運動優秀校など） | |
| ●緑化推進ポスター・標語作品展示 | |
| ●児童館「子どもコーナー」 | ●ふれあい体験学習（竹とんぼ） |
| ●植木まつり | ●小・中学校花壇展示 |
| ●生け花展示会 | ●ハーブ展示会 |
| ●青果物即売会 | ●花苗・野菜苗即売（市内高校出展） |
| ●洋蘭展示即売会 | ●盆栽展示即売会 |

※無料配布する花やオークションに提供される花は、市内園芸会社から購入したものを提供している。



花と緑のオークション



園芸講習会



子どもコーナー



緑化推進児童生徒作品展



❖まちをよくするには、まずまちを知ること。そしてまちを知るには、まちを見ること、それがその第一歩になる。そんな考えから生まれたのが「都市景観絵地図コンクール」です。

❖まちを探検して発見したことや思ったことを、絵地図にまとめる作業を通して、身の回りの景観やまちづくりが身近なものであることに気付き、興味を持ち、まちに目を向けるきっかけとなります。

詳細

○対象：市民

○目的：身近なまちの絵地図を作成することを通じて、まちをよく見るきっかけ作りとする。

○内容・特徴：応募者が自分なりにテーマを絞り、まちを探検して発見したこと、思ったことを題材に絵地図で表現する。前身として、「都市景観子ども絵画展」を開催していたが、10年を区切りとして、新たに景観をテーマとした公募として「絵地図コンクール」を実施。

○第5回（平成19年）募集概要

- ・募集対象：ひとりでも、グループでも応募可。
- ・募集期間：平成19年9月10日～20日
- ・応募の決まり：表現方法は、絵、切り貼りや絵本、紙芝居、立体作品など自由。ただし、簡単に持ち運べるサイズのものとする。
- ・審査方法：公開審査とし、全応募作品を会場に展示、審査員（景観審議会委員、市長、教育委員会教育長）によって審査する。

この他に、一般市民の票により決定する「市民賞」を設置し、応募者は作品を審査員にプレゼンテーションする。作品のテーマ・表現方法・創意工夫・プレゼンテーションを総合的に評価する。

●第4回都市景観絵地図コンクール（応募総数：53点）



地区に昔から伝わる盆行事について調べた作品です。

小湊鉄道の駅について調べ、写真を使って本のようにまとめた作品です。



公開審査会の様子



❖市民が身の回りにある、身近な景観の中で「お気に入りの場所」「大事にしていきたい場所」「とても安らぐ場所」を写真に撮り、それにコメントを付けて展示します。

❖なぜその場所が気に入ったのか、大事にしたいのかといった、選んだ理由を考えることにより、身の周りの景観をよく見るようになり、無意識に感じていた、その景観の良さを意識し、市民がまちへの関心を持つきっかけとなります。

詳細

○対象：市民

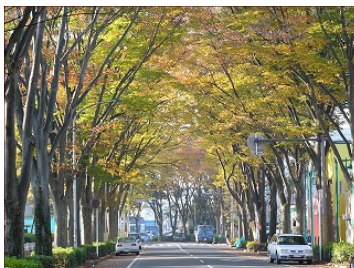
○目的：身近な景観をよく見ることで、その良さを意識するきっかけをつくる

○内容：市内の気に入っているスポットや、残したいスポットなどの写真をコメントとともに募集し、展示する。

○平成 18 年度募集概要

- ・募集作品：身近な「とても気に入っているところ」「大事にしていきたいところ」「とても安らぐところ」を写真に撮ったもの。
- ・募集期間：第 1 弾 7 月 10 日～9 月 5 日、第 2 弾 12 月 1 日～1 月 10 日
- ・応募方法：写真プリント、またはデジタルカメラデータを郵送かメールで送る
- ・応募の決まり：撮影場所とそこを選んだ理由（コメント）を添える。
- ・応募総数：第 1 弾 応募者 24 名 作品 67 点、第 2 弾 応募者 25 名 作品 87 点
- ・作品展示：市の関係施設（市庁舎連絡通路、駅連絡通路市民ギャラリー）、イベント等で 2 週間程度の展示。誰でもその景観を見に行けるように、市の HP でも紹介。

●応募作品



コメント：

常盤平駅から続くケヤキ並木は、「新・日本街路樹百景」に選ばれている並木です。特に、新緑と紅葉の頃は素晴らしく、カメラを片手に散歩したくなります。

コメント：

旧葛飾橋から江戸川河川敷を望む風景は、松戸に帰ってきたなあと、しみじみ感じる風景です。





❖高校生を対象に、景観について学ぶきっかけとなる場を提供し、ふるさとの景観に対する意見やアイデアをプレゼンテーションしてもらう「高校景観デザインコンテスト」。

❖コンテストで高校生のプレゼンテーションを聞くうちに、みんなが身近な景観を意識し、誇りと愛着を持てるように、そして自分も景観づくりに参加してみようと思ってしまう仕掛けの取り組みです。

詳細

○対象：県内の高校または高等専門学校に在学している学生。

○目的：コンテスト形式で景観デザインに取り組むことで、身近な景観に誇りと愛着をもてるようにする。

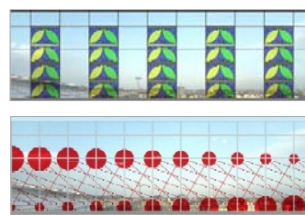
○内容・特徴：郷土の魅力に結びつくようなオリジナルの景観形成について研究し、具体的な提案をしてもらう。

○平成17年度実施概要

- ・テーマ：県民一人ひとりが自分たちの住む地域の景観を意識し、愛着と誇りを持てる地域づくり、郷土の魅力づくりと魅力の発信に結びつくような「美しいふるさとづくり」
- ・応募資格：県内の高校または高専に在学し、同一学校に在学する生徒で研究チーム（1チーム5人まで）を構成し、顧問教諭のもとで研究し応募する。
- ・応募方法：期日までに参加申込書を提出し、参加登録書を受け取る。
- ・審査方法：コンテスト形式で審査員による公開審査とする。

●コンテスト開催概要

- ・日時：平成17年12月15日 13:00～16:30
- ・審査形式：公開審査
- ・審査方法：コンテスト方式とし、1チーム15分以内でプレゼンテーションをする。
参加希望多数の場合は、提案内容を審査（1次審査）し、コンテストに出場するチームを選考する。
- ・審査員：都市計画、現代美術、屋外広告等の専門家
- ・副賞：最優秀チームには、景観づくりの事例研究のため県外研究旅行を実施。
*旅費は県負担



応募作品のデザイン提案

県外研修の様子



❖毎年「都市景観の日」に合わせて、市内の3ヶ所の公民館で、それぞれ1週間程度開催されます。

❖まちと農村で行われている都市景観づくりに関するいろいろな情報を、写真やパネル、パンフレットなどから得られる機会をつくっています。

❖公民館を展示会場とすることで、公民館利用者が気軽に立ち寄れ、市民が景観についての意識を持つきっかけとなっているのです。

詳細

○対象：市民

○目的・内容：市内のまちや農村の美しい施設や景色、地域の景観活動、または景観形成に役立つ情報を写真やパネル、パンフレットなどで紹介する。

○平成19年度実施概要

- ・日程：10月2日～10月11日。
- ・会場：市内3ヶ所の公民館で、各1週間ずつ開催。
- ・形式：写真、パネルの展示、パンフレットの配布。

○企画

まちづくり彩々展【都市計画課】

毎年テーマを設定し、そのテーマに沿った展示を行う。

- ・「都市景観賞」受賞作品の紹介（平成19年度は都市景観賞の3年に1回の選考年）
- ・各種パネルの展示（水辺の景観、紅葉マップ、桜マップ）
- ・パンフレット「えべつ美景観」の配布（えべつの景観のPR）

江別のみどりPR【環境課】

- ・「花のある街並みづくりコンテスト展」受賞作品の紹介
- ・「えべつの名木」の写真パネルの紹介

農村を花で彩る景観づくり展【農協・農業改良普及センター・農業振興課】

- ・花のある農村景観のPR - 写真による花のある農村景観の紹介
- ・農村とまちを結ぶための情報発信
- ・パンフレットなどによる情報発信



都市景観賞受賞作品



各種パネル展示



農村を花で彩る景観づくり展

スケッチしよう！ わたしが好きな場所

No.7

わたしが好きなまちかどスケッチ展 神奈川県平塚市



❖小学校高学年を対象に、住むまちの自分の好きな場所や絵になる風景のスケッチを募集、展示する「わたしが好きなまちかどスケッチ展」。

❖まちの中をよく見て、好きな場所や絵の題材となる場所を探すことがきっかけとなり、身近な暮らしの中にも素晴らしい景観や風景があることに気付き、「まちなみ」や「まちかど」に目を向けるようになることが期待されます。

詳細

○対象：市内の小学校4、5、6年生

○目的：スケッチする場所を探す行為を通じて、身の回りの景観の良さに気付くきっかけとする。

○内容・特徴：「まちかど」や「みちすじ」等の身近な風景のスケッチを募集し、優秀な作品を表彰する。

○平成19年募集概要

- ・募集作品：まちかどスケッチ（「まちかど」や「みちすじ」等の身近な風景）
※サイズ、画材等は自由
- ・テーマ：「子どもの視点から「景観」を考える」
- ・募集対象：住むまちや地域に関心を持つようになると思われる、小学校高学年を対象とする。
- ・募集期間：9月1日～15日（夏休み期間にスケッチができるように設定）
- ・審査員：教育委員会指導室長より推薦のあった、指導主事の先生3名。
- ・選考方法：4年生、5年生、6年生から各3点ずつを選定。
- ・評価の視点：技巧性や表現力だけでなく、テーマに沿うもの。描きたい対象が明らかで、構図や色彩に工夫があり、景観を考える上で示唆に富むもの。
- ・応募総数：245点
- ・作品展示：10月31日～11月4日まで、応募作品全てを平塚市美術館市民ギャラリーに展示。

●過去の応募作品



●絵画展の様子





❖景観と聞いてイメージするものは、人によって千差万別。では、練馬の美しい景観とはどのようなものなのでしょうか。さまざまな専門家と一緒にまちを歩きながら、景観について考えてもらおうというのが、景観ウォッチングです。

❖まちあるきという気軽に参加できるレクリエーションを通して、景観をより身近なものとして捉え、自分たちのまちに愛着を持つことができるようになります。

詳細

○対象：市民

○目的：美しい景観とはどのようなものであるのかを、専門家と一緒に街を歩きながら考えてもらう。

○内容・特徴：商店街、住宅街、高層ビル、文化財、みどり、農地など、さまざまな景観要素を持つ地域を選定し、まちあるきをする景観啓発事業。

○実施概要

- ・日程：年1回、秋ごろ開催、半日程度
- ・講師：建築士、文化財保護推進委員等（その年のウォッチングのテーマごとに企画会議で決定し、依頼する）
- ・募集方法：ねりま区報、練馬区のホームページ等で募集
- ・参加費用：保険料

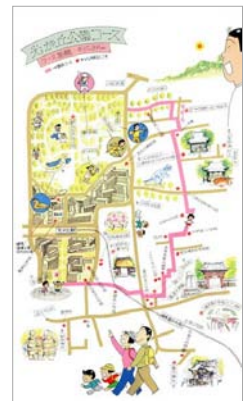


まちあるきの様子

ねりまの散歩道

- 区内の良好な景観を形成するみどりや水辺、公園、史跡や文化財などを快適、安全に巡り歩くことのできるネットワーク道路として、平成4年7月に設定。
- コース全長5～9km、コース別の案内パンフレット発行。
- コース紹介：全9コース

大泉中央公園コース	公園、緑地をネットワークしたコース。
清水山・憩いの森コース	公園から近くを流れる川を周回するコース。
光が丘公園コース	特色ある小さな公園を回るコース。
城北中央公園コース	史跡や寺院が点在する、歴史のかおり漂うコース。
大泉井頭公園コース	農家の屋敷森と、新しい街並みを回るコース。
武蔵関公園コース	上水や池など、水とふれあうコース。
石神井公園コース	武蔵野の雑木林、多くの文化遺産を回るコース。
中村・向山庭園コース	閑静な住宅街と、魅力的なポイントを回るコース。
豊玉・高稲荷公園コース	下町の雰囲気と、変わりつつあるまちを回るコース。





- ❖地区の住民自らが「ふるさとガイド名人」になって、地区ごとの様々な見どころ景観を案内します。
- ❖住民がルートを決め、住民が見どころ冊子をまとめ、住民がガイドになることで、景観を身近なものに感じてもらいます。
- ❖さらに、地域の子どもたち等との交流会も同時に開催することで、身の回りの景観を再発見し、好きになってもらえる取り組みを実施しています。

詳細

○対象：市民

○内容・特徴：地区毎に、「ふるさとガイド名人」の案内により、市内の景観を再発見・再確認する。

○実施概要

- ・募集方法：広報や地域情報紙の記事、ホームページ、公共施設でのチラシ配布等。
- ・参加費：無料。
- ・ルート：地区毎に組織された実行委員会により決定。
- ・教材：実行委員会により見所をまとめた冊子が作成され、当日に参加者に配布。

○各地区での実施概要

地区名	実施日	参加者数	内容・テーマ
上地区	平成 16 年 11 月 21 日 (土)	72 名	秦野の桃源郷を歩く
鶴巻地区	平成 17 年 7 月 23 日 (土)	66 名	明治時代からの耕地整理と温泉郷
本町地区	平成 17 年 9 月 18 日 (日)	32 名	秦野の水道史等
大根地区	平成 17 年 9 月 28 日 (水)	33 名	中世秦野の歴史遺産
北地区	平成 17 年 10 月 1 日 (土)	20 名	丹沢山麓、盆地の扇頂の美しい景観
東地区	平成 17 年 10 月 8 日 (土)	32 名	丹沢山麓の美しい景観、歴史・文化の故郷
南地区	平成 17 年 10 月 22 日 (土)	33 名	清水がわき出る湧水群の里
西地区	平成 17 年 10 月 29 日 (日)	43 名	美しい里山と雄大な丹沢の眺望



各地区での「見て歩き」の様子

実施内容例：上地区の実施内容

◇時間：午前 9 時～午後 1 時半

- ◇内容
- ・第一部 見て歩き：「ふるさとガイド名人」の案内による散策
 - ・第二部 交流会：参加者と、地元小学校の児童、「ふるさとガイド名人」の交流会
 - ・第三部 歌のプレゼント：合唱団による歌の披露

百景を巡るバスツアー！

No.22

うつのみや百景バスツアー 栃木県宇都宮市



❖市の職員やボランティアの方の案内で、市の百景を巡る「うつのみや百景バスツアー」。親子でも、夫婦でも、友達同士でも、市民の誰もが気軽に参加できます。

❖参加者は、史跡や歴史的建造物、地域の自然など、様々な景観を見て回ります。見学先では、案内の方による解説もあり、景観に対する理解が深まります。

❖1日のツアーが終わる頃には、地域の景観の魅力を再認識していることでしょう。

詳細

○対象：市民（定員 20 名）

○目的：うつのみや百景のバスツアーを実施することで、市民に市の美しい景観を再認識してもらい、郷土愛を醸成するとともに、「景観づくり」の大切さを理解してもらうことで景観に対する意識を啓発する。

○内容・特徴：うつのみや百景を巡るバスツアー。見学先では、市の職員やボランティア等により、見学対象の景観に関する歴史等や、景観づくりの取り組みの解説が行われる。

○実施概要

- ・日時：年2回（春と夏）開催、各回とも9時から16時程度。
- ・費用：無料（ただし、資料館等の有料施設の入館料と旅行傷害保険料は参加者が負担）。
- ・募集方法：市広報誌で募集し、抽選により参加者を決定する。
- ・実施体制：市有バスを使用する。市職員3名程度が引率し、現地では、市職員やボランティア等が解説を行う。
- ・教材等：見学対象の写真や解説等を掲載した「しおり」を配布。

○実施例（平成19年度の例）

◇うつのみや百景新緑バスツアー

- ・実施日：平成19年5月25日（金）
- ・見学場所（見学時間）：①宇都宮城跡公園（50分）/②栃木県中央公園（30分）/③長岡の百穴古墳（20分）/④飛山城跡（90分）/⑤清原工業団地のケヤキ並木（車中見学）/⑥栃木県立農業大学校内にあるエンタイ壕（30分）/⑦田川の遊歩道散策から旧篠原家住宅（55分）

◇うつのみや百景探検バスツアー

- ・実施日：平成19年8月24日（金）
- ・見学場所（見学時間）：①宇都宮城跡公園（50分）/②野沢町にある竹林の風景（30分）/③智賀都神社（車中見学）/④二宮堰と篠井富屋連峰（20分）/⑤ろまんちっく村（100分）/⑥大谷石が採掘された岩肌（10分）/⑦大谷資料館地下の採掘跡（30分）/⑧大谷景観公園周辺の姿川と岩肌、平和観音と大谷公園（40分）/⑨松が峰カトリック教会（45分）



参加者に配布される「しおり」の表紙(左)と本文(右)の例

うつのみや百景

- ・市の魅力ある風景を市民の協力により再発見し、「市民による景観づくり」の意識の高揚を図ることを目的として選定された。





- ❖歴史的街並み修景に取り組む地区の住民と行政職員が、景観まちづくりの先進都市と一緒に視察する「まちづくり住民見学会」。
- ❖視察先の行政職員や、まちづくりに取り組む市民組織のメンバーの話を聞いた後、実際に町並みの見学を行います。
- ❖行政職員と住民と一緒に視察を行うことで、景観まちづくりのイメージを共有することができます。視察の内容は「かわら版」により住民に発信されます。

詳細

○対象：歴史的町並み修景基本方針策定調査の対象地区が含まれる8町内の住民（定員30名程度）

○目的：土浦城址周辺地区では、歴史的資源を活かし、地域住民と市との協働によるまちづくりを進めるために、まちづくり住民見学会を実施した。

○内容・特徴：景観まちづくりの先進都市を、行政職員と住民と一緒に視察し、まちづくりに携わる行政担当者や、市民組織などからレクチャーを受ける。

○実施概要

- ・日時：各回とも土曜日又は日曜日に開催、時間は見学先により異なる
- ・費用：無料（ただし、昼食費や入館料等は各自が負担）
- ・募集方法：対象地区の全戸（約3,200戸）に「かわら版」を配布し募集
- ・実施体制：市職員5人程度が事務局として引率、視察先までの交通は市所有の中型バスを使用
- ・教材等：見学対象地の観光案内や観光マップ等の資料を配付

○実施実績（※現在は実施されていない）

回	実施年度	視察先
1	平成12年度	埼玉県川越市
2	平成14年度	栃木県足利市
3	平成15年度	千葉県佐原市
4	平成16年度	栃木県栃木市



研修の様子

○当日のスケジュール例（第3回の場合）

7:30	出発（車中で佐原市に関するビデオ鑑賞）
9:00	佐原着、香取神宮見学
10:30	研修（佐原市職員及びまちづくり住民組織の方の話）
12:15	自由昼食
13:30	町並み見学（ボランティアによる案内又は自由見学）
15:30	佐原発（車中で見学会の感想や土浦のまちづくり等に関するアンケートを実施）
17:00	土浦帰着

○その他

- ・「町並みまちづくり かわら版」を発行し、視察の報告や参加者募集の案内等を行っていた。



『町並みまちづくりかわら版』



- ❖景観賞受賞作品や都市景観重要建築物等を親子でバス見学する「まちなみウォッチング」。
- ❖市の職員の方の解説で、普段はなかなか知ることの出来ない、建物の歴史や由来、先人の工夫も学べます。市内に残る貴重な建築物や、生活に豊かさを与えてくれる景観を見学しているうちに、親子の会話も弾んできます。
- ❖参加した子どもたちの感想文は、都市景観のイベントで展示・発表されます。将来を担う子どもの言葉で、大人の意識も高まります。

詳細

- 対象：小学校5、6年生（保護者の方の同伴が必要）
- 目的：都市景観に対する市民の意識の向上を図り、関心を高めるためには、子どもの頃からの意識啓発が重要であることから、家庭での都市景観についての会話のきっかけとなる材料や機会を提供する。併せて、都市景観に対する大人の関心も高め、意識の向上へつなげる。

○内容・特徴：「佐賀市景観賞」受賞作品及び「都市景観重要建築物等」を親子でバス見学する。参加した子どもには感想文の提出が依頼され、都市景観事業イベントで展示等が行われる。

○実施概要（*現在は実施されていない）

- ・日時：平成16年及び17年の8月に実施。1回2時間程度。
- ・費用：無料
- ・募集方法：学校を通して募集する他、市報に案内を掲載。
- ・実施体制：市のマイクロバスを使用する。市職員2人程度と古民家に詳しい方1人の計3人が引率にあたる。
- ・教材等：見学対象の建物等について解説した資料と、建築に関する用語を解説した『ことばの解説』を配布。



参加者に配布される、見学対象を解説した資料（左）と『ことばの解説』（右）

○全体の流れ

①まちなみウォッチングの実施

- ・「佐賀市景観賞」の受賞作品と、市指定の「都市景観重要建築物等」の見学を行う（4ヶ所程度）。

②感想文の提出

- ・参加した子どもたちに、期日までに、原稿用紙2枚程度の感想文を書いてもらい、各小学校に提出してもらう。

③感想文の提出・優秀作品の発表等

- ・翌年に開催する都市景観事業イベントで、感想文の展示を行う。優秀な作品は、子どもに発表等をしてもらう。
- ・都市景観に対する子どもたちの感想を、大人に知ってもらうことにより、大人に対する意識啓発とする。

- 佐賀市景観賞：市内にある建築物・工作物・まちの小さな構造物・樹木・植栽などで、都市で生活する中で都市景観の魅力を向上させたり、都市の生活を豊にするようなものを表彰する制度。平成9年度から実施。
- 佐賀市都市景観重要建築物等：歴史的にも景観的にも優れた建築物を指定し、修繕のための経費の一部を助成しながら、所有者と一緒にすぐれた景観を守るための制度。平成14年度から実施。





❖年に1回開催される「景観セミナー」。

❖専門家からの話に加えて、市民の中から選ばれた景観サポーターの研究報告も合わせて行われます。景観サポーターは、身の回りの景観について、テーマを設けて調査研究を行います。

❖そして、このセミナーを聴いた人の中から次の景観サポーターとなって、景観を考え、景観リーダーとなってくれる人材が生まれてくることを目指します。

詳細

○対象：市民

○目的：セミナー参加者の中から、次年度以降の景観推進員の発掘（景観リーダーの育成）につなげる。

○内容・特徴：専門家による基調講演と、景観推進員（景観サポーター）の研究活動報告会を実施する。

○実施概要：

- ・開始年：平成13年
- ・開催頻度：年1回（3月の土曜日または日曜日、午後半日程度）
- ・募集方法：新聞、広報誌等のメディアを活用し、広く参加を呼びかけている。
- ・形式：基調講演＋景観サポーターの活動報告



平成18年度 景観セミナーの様子

●景観推進員（景観サポーター）

- ・景観に興味・関心のある人を公募で募り、身の回りの景観に関する情報について、各自テーマを設定し、調査・研究を行うボランティア。
- ・平成18年度は、4名の景観サポーターが現地調査や定期的なグループミーティングを実施。

平成18年度研究内容は以下の通り

- 中心市街地における緑被地の維持・管理と評価に関する研究
- 街区公園の構造と評価に関する研究
- イメージマップにみる地域の一体制に関する研究
- 快適な「景観」のあり方について



❖ 「景観」や「景観まちづくり」に対して、景観そのものからのアプローチだけでなく、緑やアート、広告など、様々なテーマでシンポジウムや講演会を開催している「地域まちづくり塾」。

❖ 大学教授や各分野の専門家を招いて、話を聞きます。

❖ 景観を幅広く捉え、テーマとして取り上げることで、市民がさまざまな角度から景観に触れるきっかけをつくることができます。

詳細

○対象；市民

○目的：景観について、市民が様々な角度からアプローチするきっかけとなる。

○内容・特徴：「景観」という視点での様々なテーマについてシンポジウムや講演会を実施する。

○実施概要：

- ・ 開始年度：平成 9 年度。
- ・ 開催頻度：年 1～2 回。
- ・ 募集方法：広報誌・ホームページ・募集ポスター・チラシ。
- ・ 講師：大学教授や景観に関わる分野の専門家。
- ・ 参加費：無料。
- ・ テーマ例：「まちなみと広告」（平成 13 年度）、「都市の緑と景観づくり」（平成 15 年度）。

●平成 17 年度概要

- ・ 日程：平成 17 年 9 月 24 日
- ・ 時間：14：00～16：00
- ・ テーマ：身近なアートで心豊かなまちづくり～「記憶」そして「所在」・アートが媒体となり新たなるコミュニティーの場を創造する～
- ・ 定員：120 名



●平成 18 年度概要

- ・ 日程：平成 19 年 3 月 24 日
 - ・ 時間：13：30～15：30
 - ・ テーマ：景観のススめ～よい景観がもたらすもの～
 - ・ 定員：50 名
- *ポストイットを利用して、参加者の景観形成に対する意見をその場で紹介。

